

事務事業名		消防団運営事業			☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	03 安全なまちづくりの推進			事業期間		予算科目				
	施策名	18 消防・救急・救助体制の充実					会計	款	項	目	事業
	基本事業名	02 消防体制の充実					01	09	01	02	04
根拠法令											
所属	部課名	大船渡消防署			☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 年度 ~) ☐ 期間限定複数年度 (計画期間) 年度 ~ 年度 全体計画欄の総投入量を記入						
	係名	消防団係	電話	27-2119							
			内線	33							
事務事業の概要 (具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) ・地域の自主的な消防・防災活動を担う消防団の運営に関する事業。 ・主な業務は、消防幹部会議 (基本方針や重要事項について審議するための会議を開催する)、消防団本部会議 (団全体のスムーズな運営を図るための会議を開催する)、消防団活動 (日常の消防団活動を行う)、消防厚生会事務 (団員の福利厚生活動)、消防団運営費の交付など。 ・事業費は、会議出席のための旅費、消防団への運営費、消防厚生会の負担金として支出される。						全体計画 (期間限定複数年度のみ) 総投入量 (千円) 事業費 財源内訳 国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源 事業費計 (A) 0 正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計 (B) 0 トータルコスト(A) + (B) 0					

1 現状把握の部 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標		活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)	
手段 (主な活動)		名称 単位	
前年度実績 (前年度に行った主な活動)		ア 会議開催数 回	
消防幹部会会議、消防団本部会議、消防団活動、消防厚生会事務、運営費の交付		イ 消防分団数 団	
今年度計画 (今年度に計画している主な活動)		ウ 消防団員数 人	
前年度と同じ		対象指標 (対象の大きさを表す指標)	
対象 (誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等		名称 単位	
・大船渡市消防団員		カ 大船渡市消防団員数 人	
・消防団のある地域に住む市民の生命・財産		キ 市内人口 人	
意図 (この事業によって、対象をどう変えるのか)		ク	
・適正な消防団活動を図る。		成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	
・火災、風水害、地震津波などの災害等から守られる。		名称 単位	
結果 (基本事業の意図: 上位の基本事業にどのように貢献するのか)		サ 災害出動延人数 人	
・出火時に的確な消火活動ができる。		シ 警備出動延人数 人	
・災害時に的確な消防活動ができる。		ス 訓練等出動延人数 人	

(2) 総事業費・指標等の推移		年度	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (実績)	21年度 (実績)	22年度 (実績)
投入量	事業費	単位						
		千円						
投入量	事業費	国庫支出金						
		都道府県支出金						
		地方債						
		その他						
		一般財源	5,164	5,376		4,830	4,871	4,740
		事業費計 (A)	5,164	5,376	0	4,830	4,871	4,740
	人件費	正規職員従事人数	2	2	2	2	2	2
		延べ業務時間	720	720	720	720	720	720
		人件費計 (B)	2,880	2,880	2,880	2,880	2,880	2,880
		トータルコスト(A) + (B)	8,044	8,256	2,880	7,710	7,751	7,620
活動指標	ア	回	15	15	15	15	21	16
		イ	12	12	12	12	12	12
		ウ	1,097	1,087	1,063	1,088	1,049	1,029
	カ	人	1,097	1,087	1,063	1,088	1,049	1,029
		キ	43,702	43,119	42,435	41,957	41,684	40,537
		ク						
対象指標	サ	人	2,275		2,743		2,556	10,274
		シ	699		323		1,090	3,490
		ス	5,460		4,537		7,136	3,463

事務事業ID	1096	事務事業名	消防団運営事業
(3) 事務事業の環境変化・住民意見等 この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 大船渡市市制施行(S27.4.1)と同時に消防団発足による。			
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？ 平成13年の合併で管轄区域の拡大と組織の構成員が増えた。			
この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？ 特になし。			

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている [理由] 消防団を運営維持することは、出火時に迅速かつ的確な活動が可能になり、消防体制の充実につながる。
	公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である [理由] 消防団の活動は、市民(地域住民)の生命・財産を守ること、消防団を維持することは、消防行政の一環であり公共性が非常に高く、その費用は大船渡市で負担しなければならないと考える。
	対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である [理由] 対象は市民(地域住民)の生命・財産及び消防団活動を行う消防団員であり、それ以上もそれ以下も考えられない。また、意図も限定・拡充の余地はない。
有効性 評価	成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない [理由] 現状の運営事業で成果が上がっている。
	廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 [その内容] ・火災や災害等の消火活動等に影響が生じる。 ・消防団の消防活動に係る意思疎通ができなくなる。
	類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない [理由] 他に類似事業がない。 ☒ 他に手段がない [理由]
効率性 評価	事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] ・事業費の削減は団員数の低下を招く。 ・消防団の意思疎通を図る事業はこれだけであり、削減の余地はない。
	人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 事業執行に係る人件費は発生していない。
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である [理由] 消防団業務の責任は自治体にある。

事務事業ID	1096	事務事業名	消防団運営事業
--------	------	-------	---------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 団関係の諸会議開催は、消防団運営には欠かせない事業である。引き続き意思統一のために開催しなければならない。また、組織内における自己の責任に対する自覚が乏しい者もあり、教養、訓練の内容を充実させる必要がある。									
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容)		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 																							

(職 名) 原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	大船渡消防署長
-------	---------

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)

- ☐ 記述不足でわかりにくい
☐ 一部記述不足のところがある
☒ 記述は十分なされている

評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)

- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
☐ 一部に客観性を欠いたところがある
☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり
有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり

(3) 評価結果の根拠と理由

統制された消防団活動を行うためには、絶えず意思統一のための会議や、資質向上のための教養は欠かせない。事業の重要性をよく認識している。

(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持
 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)

(上記方向性に対する具体的な内容)

消防事業を行うには消防団の統率が必要であり、欠かすことのできない事業である。継続実施する。

(5) 改革・改善による期待成果

左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。
(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		●	×
	低下		×	×

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項